

駿府城東御門・巽櫓リニューアル記念シンポジウム「天守台と金箔瓦の謎に迫る」
「第1部 駿府城跡天守台発掘調査の成果と課題～天正期を中心に～」配付資料

令和3年6月12日(土)
静岡市観光交流文化局歴史文化課

1 天守台跡発掘調査について

(1) 目的

- * 駿府城公園・天守台跡地の整備方針検討のための調査
- * 天守台の正確な位置・大きさ・石垣残存状況などの学術データを得ること

(2) 調査計画

- * 掘削作業・測量・記録(4年間): H28-R1
- * 整理作業・報告書作成(2年間): R2-R3

(3) “駿府城の一生”と発掘調査の対象

- * 駿河国の中心地
- * 戦国大名・今川氏の本拠地
- * 戦国武将家康の駿府城
(天正期=戦国時代末期)

- * 大御所家康の駿府城
(慶長期=江戸時代初期)

- * 天下泰平の世の駿府城
- * 廃城とその後
- * これからの駿府城

(4) 発掘調査の経過

- * H28～ : 慶長期
- * H30～ : 天正期
- * R1～ : 今川期

“駿府城の一生”について詳しくは
リニューアルした東御門・巽櫓の展示
をぜひご覧ください!

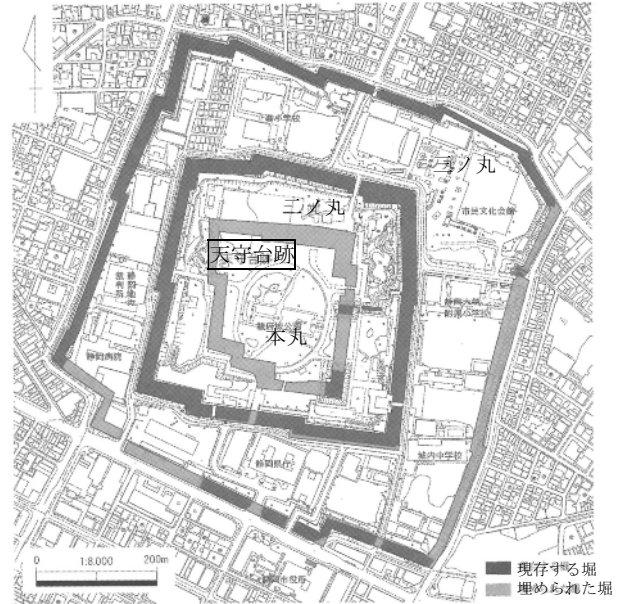


図1 駿府城全体図

年代	出来事
天正 13(1585) 年	7月徳川家康 築城開始
天正 14(1586) 年	家康が浜松城から移る
天正 16(1588) 年	5月天守の普請
天正 17(1589) 年	2月小天守の普請
天正 18(1590) 年	8月家康が江戸へ なかわらからすうじ 中村一氏(豊臣方武将)が城主になる
慶長 12(1607) 年	2月天下普請による大改修開始 7月家康が移り住む 7～8月頃天守台完成 12月駿府城火災(御殿など焼失)
慶長 13(1608) 年	8月天守上棟式
慶長 15(1610) 年	天守完成
寛永 12(1635) 年	城外の火事が引火、天守・櫓等焼失
寛永 15(1638) 年	御殿・櫓など再建する(天守再建せず)
宝永 4(1707) 年	宝永地震により石垣・建物被害
宝永 5(1708) 年	修復工事を行う
安政元(1854) 年	安政地震により城内の建物ほぼ全滅
安政 4(1857) 年	修復工事を行う
明治 3(1870) 年	城門など建物の払下げ、取壊し開始
明治 29(1896) 年	陸軍歩兵第34連隊設置に伴い天守台取壊し・本丸堀埋立

(参考文献:『静岡市史』、『大御所家康の城と町』)

表1 駿府城跡関連年表

2 天正期駿府城の発掘調査成果

(1) 天守台・小天守台等(石垣)

- * 大きさ・高さ(確認面)

大きさ: 天守台…南北約37m、東西約33m / 小天守台…一辺約20m

高さ：最大で約 4m（残存部分のみ）本来はそれ以上の高さ有

＊積み方の特徴

大きな石を加工せずに積み、隙間に小さな石を詰める

勾配は約 58 度、背面の栗石（幅は約 1～4m）

＊石垣に使用された石材の特徴

主な産地（種類）は、長尾川流域の砂岩、大崩海岸周辺（玄武岩・凝灰岩）と推定

大きさ：約 1～3m（天守台の築石）

＊城の構造（縄張り）

連結式天守 ⇒ 天守（台）＋渡櫓（台）＋小天守（台）

北側と西側は堀、南側と東側に石垣が続く（今回の調査範囲外）

＊石垣上部を破壊され、その上（外側）に慶長期の石垣を構築



写真 1 天守台検出写真（真上から撮影）



写真 2 金箔瓦（軒丸瓦・凹面金箔）



写真 3 金箔瓦（軒平瓦・凸面金箔）

(2) 瓦

＊出土状況

慶長期の整地土の中から出土

（天正期の城を壊した際に埋められたもの）

＊金箔瓦

瓦の表面に金箔を貼り付けたもの

金箔の貼り方：

凹面（軒丸瓦）

凸面（軒平瓦、鬼瓦、棟板瓦）

＊金箔瓦の特徴

瓦の作り方や文様の特徴に安土城と類似要素あり

＊金箔が貼られていない瓦

（文様の特徴は金箔瓦と異なる）

		駿府城	信長 (安土)	秀吉 (大坂・聚楽第)
軒丸瓦	貼る面	凹面 (へこんだ部分)	凹面	凸面 (出っ張った部分)
	文様	近江系 (安土と同じ)	近江系	大坂・京都系
軒平瓦	貼る面	凸面	凹面	凸面
	文様	近江系	近江系	大坂・京都系

表 2 金箔瓦の特徴比較

3 調査成果から考えられること・課題

(1) 調査成果とその評価・発表の経緯

平成 30 年 11 月

*天正期天守台発見・金箔瓦発見の発表

①大規模な天守台 / ②大量の金箔瓦が出土

*考えられること・発表内容

①豊臣政権（秀吉）の城郭政策に基づく築城⇔大名独自の築城

②豊臣秀吉の命により豊臣方大名・中村一氏が築城

*金箔瓦城郭の分布に基づく「金箔瓦包囲網」の先行研究の存在

令和元年 9 月

*学術誌での紹介（『織豊城郭 第 19 号』）⇒多くの研究者の意見・検討を期待

天正期駿府城の遺構・遺物の特徴を速報として紹介、検討課題を提示

令和 2 年 1 月

*天正期小天守台発見の報道発表

*天守+小天守が同時に存在=『家忠日記』（家康家臣の松平家忠の日記）の駿府城築城に

関する記述と一致⇒徳川家康による築城の可能性が浮上

(2) 天正期駿府城の築城者や位置づけに関する研究

*専門家からの様々な意見（論点）

①豊臣政権の城との共通点の有無

②豊臣政権下の駿府城の位置付け

③天正期に徳川家康がどこまで独自に城を築くことができたか

*判明した事実に加え、駿府城の果たす役割、人員・技術の確保などを総合的に考えると

豊臣政権の影響下にあったと考えられる。

⇒発掘調査報告書作成に向けて、事実の整理、事実に基づく学術的な検討を継続中

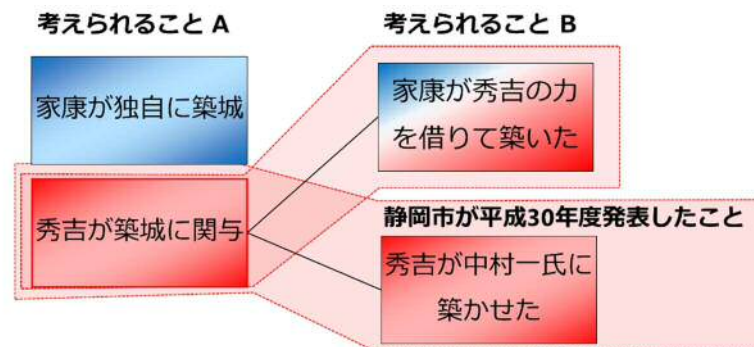


図 2 天正期駿府城について考えられること

(3) 課題

*天正期駿府城築城とその背景

*天正期の遺構（天守台・小天守台）の特徴とその評価

*金箔瓦が意味するもの（凹面と凸面、文様の特徴）

年	駿府城の築城／『家忠日記の内容』	秀吉の城	家康と秀吉の関係	
天正11 (1583)		大坂城		悪化
天正12 (1584)		(本丸)	小牧・長久手合戦 11月 織田信雄(信長の子)が仲裁し、家康は秀吉と和解	改善
天正13 (1585)	7月 家康、駿府城築城に着手 8月 石引 閏8月 御屋敷普請	(天守完成)	10月 家康、秀吉に対する人質提出を拒否 11月 一部の家康家臣が秀吉方につく	悪化
天正14 (1586)	12月 家康、浜松城から駿府城に移る	聚楽第 (二ノ丸)	5月 旭姫(秀吉の妹)が家康正室となる 10月 家康、大坂城で秀吉に謁見 11～12月 家康、関東・東北地方の平和維持を任される	和平
天正15 (1587)	1～4月、9～11月 本丸(本城堀)・二ノ丸(二のくるわ堀、石垣)の普請			
天正16 (1588)	1～3月 石取り、御本城普請 5月 天守の材木の手伝普請		4月 後陽成天皇、聚楽第へ行幸。家康も参加 5月～ 秀吉と北条氏の関係が一時悪化 家康、北条氏と秀吉の関係を調整	
天正17 (1589)	2～4月 小天守の手伝普請 4～7月 本丸の石垣が崩れたため普請		11月 秀吉、北条氏を攻めることを決定 12月 家康、上洛し、秀吉と軍議	緊張
天正18 (1590)	7月 家康、江戸へ移る →信雄、家康領国への国替えを拒否し、領地を没収される 中村一氏(豊臣方武将)、駿府城入城	石垣山城	2月 家康、駿府を出陣 3月 秀吉、駿府に到着し、家康と対面 7月 小田原開城	和解 国替え

表3 『家忠日記』の記述と家康・秀吉の関係性

4 これからの駿府城“天守台”

(1) 駿府城の価値・魅力

- *天下人が関わった2つの城(天守台)の築城当時のオリジナル(本物)があること【最先端の築城技術を反映】
- *それらを同時に間近で見られること
- *過去から現代につながる静岡の歩み(歴史)を実感できること

唯一無二

(2) 発掘終了後の取組み

- *遺構の保存と活用～野外展示～

歴史文化施設(博物館)を核とした「フィールドミュージアム」の展示として位置づけ(駿府城公園そして周辺エリアへ)

⇒「愛着」と「憧れ」の醸成

- *駿府城や駿府(静岡)の歴史(謎)の解明・発信・活用

臨濟寺資料調査最終報告会を開催します。ぜひご参加ください(チラシ参照)。

日時: 令和3年6月26日(土) 13:00～15:30 会場: しずぎんホールユーフォニア